

# 健康診断結果の経年変化に視点をおいた望ましい健診結果の 活用と事後措置のあり方に関する研究

平成 29 年度 研究結果の概要

研究代表 立道昌幸

## 研究目的

本研究の目的は現行の労働安全衛生法による定期健康診断を有意義に活用していく方法を提示することを目標とする。具体的には4つからなる。① 議論の多い胸部 XP 検査の有用性について再度検討すること、②職場には経年的に健康診断結果が蓄積されていることから、経年変化を利用した新たな正常値、基準値を提案することにより、また、年齢階層毎における正常値、基準値を設けることによって、その正常値を逸脱する生活習慣や労働因子の抽出を試み、保健指導による是正を考えていく。③現行の健康診断結果から糖尿病等のリスクスコアを作成し、高リスク群を精度よく抽出して、保健指導につなげるスキームを作成すること。逆に低リスク群には、健診項目省略について検討する。そして④望まれる事後措置について専門家からのコンセンサス調査を用いて明らかにし、その事後措置における効果検証を行うこと、以上4つを通じて、現行の健康診断の有効利用法を広く提示することを目的としている。

## 方法

- ① 全衛連の加盟健診機関に協力を得て、胸部 XP 検査の有所見数、異常判定数、要再検査数、結核疑い数を集計して、それぞれの率を計算した。
- ② 平成 28 年度までの労災疾病臨床研究（大久保班研究）で構築されたデータベース（以下、健診 DB）について、労働安全衛生規則第 44 条に規定のある法定健康診断項目のうち、連続変数の検査項目について、記述統計的解析を行った。また、JECOH 研究のデータを用い、特に肥満に対して重要な因子の抽出を行った。
- ③ JECOH 研究データを用い、糖尿病のリスクモデルを作成した。
- ④ 専門家産業医によるフォーカス・グループ・ディスカッションを実施し、質的に望まれる事後措置についてコンセンサスを得た。

## 研究結果と考察

H29 年度は、各分担者間でのデータベースの整備を終え、具体的にデータベースをハンドリングして、結果にまで結びつけた。

- ① 胸部 XP の検討では、8,669,403 人の胸部 XP のデータを集計した。肺結核については、全国の職域での胸部 XP 発見率 0.01%と罹患率 0.014%との差は小さくなく、胸部 XP にて結核はある程度補足できており、尚も職場での結核が重要な課題である現在の職場では、必要な健診と考える。一方で、肺癌の発見については、今回の調査では早期癌の

分類ができていない点で評価が困難であったため、次年度では健診で発見される肺癌のステージを調査する予定である。

- ② 健診結果の年齢別のトレンドを見てみると明らかにデータは年齢に連動して変動する。また、BMI 別の変動を検討した結果、BMI が正常であっても加齢による変動が起こることから、年齢階層毎の基準値の設定が必須であると考えら、次年度にてこの基準値の設定を目指す。
- ③ 今年度にて、すでに糖尿病のリスクスコアが完成し、その検証まで終了している。このスコアは非常に精度が高いことが明らかにされたことより、このスコアを用いて、より効果的な保健指導へと結びつけることができることが示唆された。また、このリスクスコアを用いれば、リスクの少ない社員には健診項目を省略できる可能性を示唆しており、次年度の検討課題であると考えた。
- ④ 事後措置については、その優先順位は、1. 業務により健康影響が出ているもの、2. 就業制限等、何らかの措置が必要であるもの、3. 要受診レベルのもの、4. 要保健指導レベルのもの、であることでコンセンサスは得られた。事後措置をする場合、結果の電子化、自動判定等の機械的なサポートが必要であり、嘱託産業医の場合は、時間制約上保健師や衛生管理者との役割分担の必要性が考えられた。有効な手段として、ベンチマークとして、有所見率を明示して、その後の行動（要医療の人がその後、受療したかどうか等）を追っていくことが重要であると考えられた。これらの結果をふまえ、次年度は、分散事業所や小規模事業所で効率的に健診事後措置を行っている事例の収集、健診結果の有効活用に関する良好事例の収集、健診事後措置の効果評価（有所見率やその後の行動での評価）が必要と考えられた。

## 結論

今回、既存の健診を如何に有効に利用するかという視点で、研究を行った。その結果、胸部 XP は結核の発見に寄与できること、年齢階層毎における正常値、変化率を明らかにすることが重要であること。現行の項目においても精度よく糖尿病のリスクが検出できることが示された。これらの検討は、事後措置の観点では、要保健指導レベルを明確につなげることが示唆された。

## 今後の展望

次年度以降、①胸部 XP 検査では肺癌の発見特にステージ毎の情報を収集し、また CT とも比較して有用性を検討する。②年齢階層毎の正常値の提案とその正常値を逸脱する因子の抽出、③脳梗塞等へのリスクスコアの展開と保健指導の層別化、④望まれる事後措置について、定量的評価につなげていく。以上により、現行の健康診断の有効な利用、活用法を提案していきたい。